

# 2017年度 本州太平洋におけるサケ回帰状況 (第2報：1月31日現在)

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

本州太平洋側のサケ来遊数について、最終報として1月31日現在の状況をお知らせします。

## 1. サケ来遊概況

1月31日現在の本州太平洋側(竜飛岬から東の青森県～茨城県)におけるサケ来遊数(沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計)の累計値は449万尾(前年同期：88%)と前年を下回り、平年同期(1989～2016年の平均値、1,380万尾)との比較では33%という状況であり、1989年以降で最も少ない水準となっています(図1)。

河川捕獲数の累計値は60万尾(前年同期：102%)と前年並み、平年同期(129万尾)との比較では47%となっています。

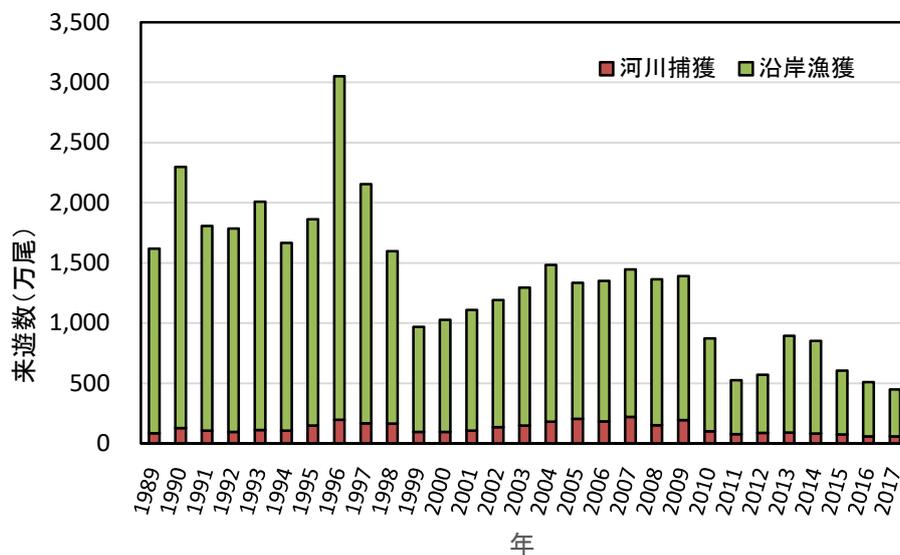


図1 1月31日時点の本州太平洋側におけるサケ来遊数(累計値)の経年変化

## 2. 年齢別来遊数

1月31日までに本州太平洋側の主要11河川（後述）に遡上したサケ親魚の年齢組成情報を基に年齢別の来遊数を推定し、過去10年間で比較しました。

主力を構成する3年魚、4年魚、5年魚はそれぞれ前年比272%、90%、54%となっており、3年魚で前年を上回りますが、4年魚で前年並み、5年魚で前年を下回っています。過去10年間では3年魚は2007～2016年の平均を上回る（平均との比128%）一方、4年魚および5年魚は2番目に少なくなっており、減少が顕著です（図2）。

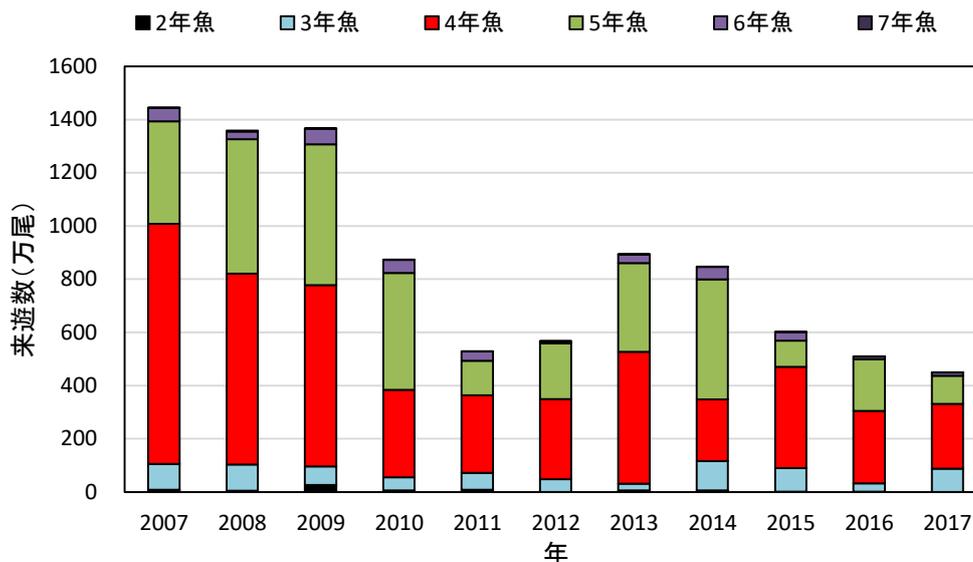


図2 1月31日時点の本州太平洋側におけるサケ年齢別来遊数（累計値）の経年変化

## 3. 年齢別河川捕獲数

本州太平洋側における主要河川のうち、1月31日現在、年齢が判明している川内川、奥入瀬川※、新井田川、安家川、田老川、津軽石川※、織笠川※、片岸川※、盛川、気仙沼大川、北上川の11河川（図3左）について、年齢別の河川捕獲数を年間の累積数でまとめました。

※:奥入瀬川は青森県産業技術センター、津軽石川、織笠川、片岸川は岩手県水産技術センターのデータ

青森県では、川内川、新井田川において4年魚の捕獲数が過去10年間でそれぞれ1番目、2番目に少なくなっていますが、奥入瀬川では過去の変動の範囲内となっています。5年魚は川内川、奥入瀬川でそれぞれ1番目、3番目に少なく、新井田川では過去の変動の範囲内となっています。捕獲数全体では、奥入瀬川では過去の変動の範囲内となっていますが、川内川および新井田川では4年魚の減少により過去10年間で最も少なくなっています。ただし、新井田川については、捕獲がピークとなる10月下旬の台風による増水の影響で、捕獲が行えない状況が長く続いたことも捕獲数が減少した一要因と考えられます（図3右）。

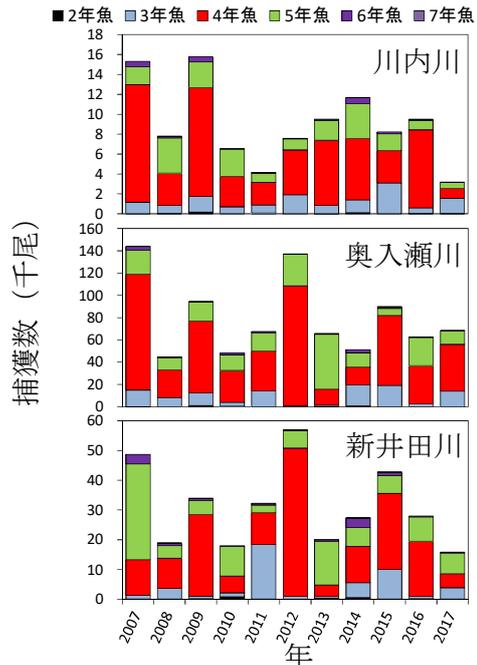


図3 年齢調査河川（左）と年齢別の河川捕獲数（右）（青森県：1月31日現在までの累計値）。

岩手県では、主要6河川のうち安家川を除く5河川で4年魚の捕獲数が顕著に少なくなっており、過去10年間では片岸川が4番目、津軽石川および盛川が2番目、田老川および織笠川が最も少ない状況です。5年魚は全ての河川で1～3番目に少ない状況です。捕獲数全体では、安家川を除く5河川で、4年魚、5年魚の減少により過去10年間で1～2番目に少なくなっています（図4）。

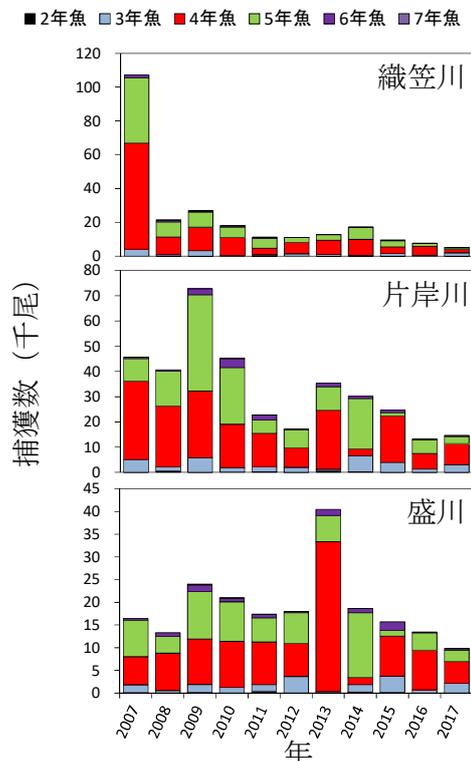
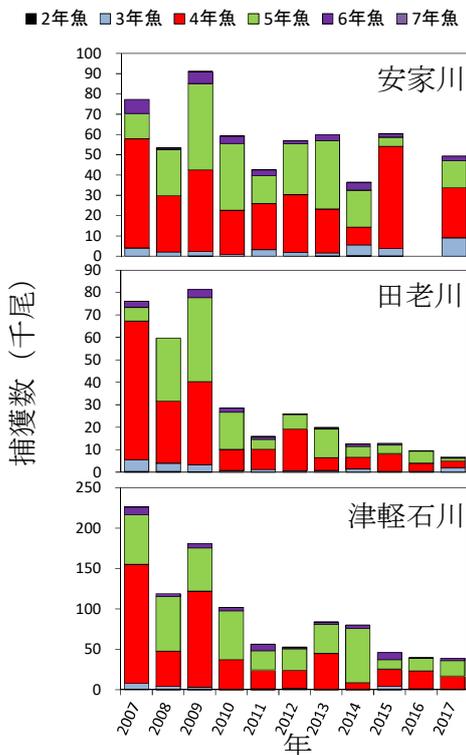


図4 年齢別の河川捕獲数（岩手県：1月31日現在までの累計値）。

宮城県では、気仙沼大川において4年魚の捕獲数が過去10年間で3番目に少なくなっている一方、北上川では過去の平均的な水準となっています。5年魚は気仙沼大川で3番目、北上川で最も少なくなっています。捕獲数全体では、北上川が過去の平均的な水準となっている一方、4年魚、5年魚の減少により気仙沼大川が過去10年間で最も少なくなっています。（図5）。

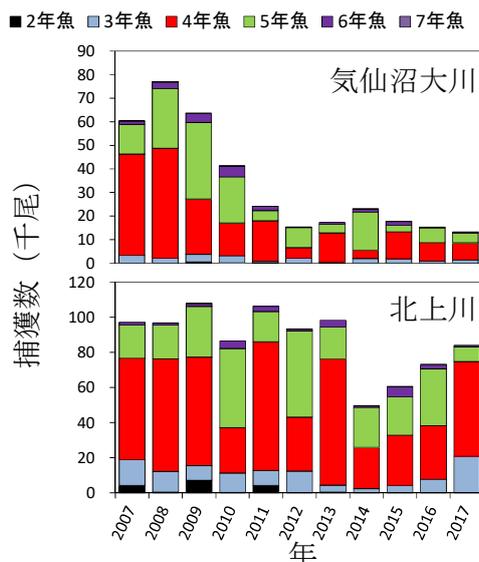


図5 年齢別の河川捕獲数（宮城県：1月31日現在までの累計値）。

#### 4. 来遊数減少の要因について

2017年度の本州太平洋側のサケ来遊数は、4年魚、5年魚の顕著な減少により著しく減少しました。2017年の4年魚および5年魚（それぞれ2013年、2012年生まれ群）は、東日本大震災の影響により、放流数が震災前より少なかった（震災前の70～80%）群です。放流数の少ない河川が複数あったことが減少の一要因となった可能性が考えられます。一方、震災前と同じ放流数に回復したにもかかわらず、捕獲数が低迷したまま回復しない河川もあることから、放流数以外にも、サケの生残に影響を及ぼした何らかの要因があった可能性が考えられます。例えば、2017年の4年魚が放流された2014年の三陸沿岸は、例年に比べてサケ稚魚放流時期にあたる3月下旬～5月上旬頃の海水温が非常に低かったことが分かっています。この時、沿岸で採捕されたサケ稚魚の成長速度が例年よりも遅かったという観察事例もあり、現在、回帰低迷との因果関係の有無を詳しく調べています。